

男女群島・肥前島視察団現地視察報告

山上博信

2013年10月13日、境界地域研究ネットワーク JAPAN (JIBSN) 五島セミナーが開催された。セミナーにあたっては、五島市と地域住民のみなさんによる最大のご配慮とおもてなしにより、成功裏に終わった。

セミナー翌日、五島市と JIBSN の共催により、「男女群島・肥前島視察団現地視察」を実施した。以下、視察団員による「私的」報告である。



海上保安庁HP「海洋台帳（領海線つき）」から引用
<http://www5.kaiho.mlit.go.jp/kaiyo/kaiyowebgis/>

2013年07時45分・福江港2号栈橋

JIBSNメンバーは、福江港2号栈橋に三々五々集合した。野口市太郎市長は、出航前にマスコミ取材を受ける。08時00分現在、福江の気象データ（※1）は、気圧1019.1ヘクトパスカル、天気晴れ、気温18.9度、湿度83パーセント、南の風0.5メートル、以後晴天は夕刻まで続き、絶好の航海日和となった。

栈橋前に全員集合し、野口市太郎市長のあいさつ、久保実市長公室長の説明を経て、参加者は、借上船（ビッグばらもんキング）に乗船した。船内は、長さ165センチの3段寝台が設備され、休憩しながら現地に赴いた。前日の懇親会疲れの者は、贅沢な朝寝。船酔いもせず現場に直行できた。



くつろげる船室



女島に上陸

10時00分・男女群島女島到達

借上船は、実に順調な航海のすえ、福江島から南西80キロメートル離れた女島に到達した。女島は、全島が天然記念物であり、一般に上陸することはできないが、今次の航海では、海上保安庁と五島市教育委員会の協力を得て谷川安昭五島市図書館長の付添いにより、上陸する段取りが整えられ、前浜で下船することができた。



女島灯台へ

女島灯台（五島市浜町女島1256番地、北緯31度59分32秒・東経128度21分00秒）は、1927年に初点灯、戦前から公衆通信業務の取扱いも行われ、松竹映画「喜びも悲しみも幾年月」のロケ地の一つとなった。映画ファンや釣り人にとって大変有名な灯台である（※2）。1998年の第50回灯台記念日（11月1日）には、海上保安庁と社団法人燈光会が一般公募した「あなたが選ぶ日本の灯台50選」の一つに選ばれた（※3）が、余りに隔絶しているがゆえに、灯台ファンにとっては、見ることすら叶わない有人灯台であったが、2006年12月5日をもって無人化された（※4）。現在、灯台の電

力は太陽光で賄われている。わずか70ワットの灯器で、21海里（約39km）先まで光が届いている。

視察団は、前浜から女島灯台まで、連絡道路を約30分かけて登る。灯台の無人化により撤去された前浜燃料庫あと付近は、打ち上げられた石が道路を覆って歩きづらく、また山腹の道路もところどころガードレールが破損しており、一步一步随分気を遣いながらの登山となった。道中、不法上陸をする者は、日本の法令により逮捕されるとの警告板を見た。険しい坂道でAEDや医療器具など重い荷物を携え、視察団に付き添いいただいた嶋里沙織保健師には、大変なご負担をおかけしてしまった。心より感謝申し上げると共に、体調を崩す者やけが人が出なかったことが、結果として一番良かったと考える。



11時00分・楽しいお弁当♪

山頂（標高約110メートル）にある女島灯台敷地で昼食。天気が良く、急な坂道を登り切って汗の噴き出る中、わずかな日陰をみつけて各自休息をとる。お弁当や飲料の手配について、五島市役所市長公室の樋口貴彦政策企画係長の格別のご配慮をいただき、実に楽しいランチタイムを持つことができた。

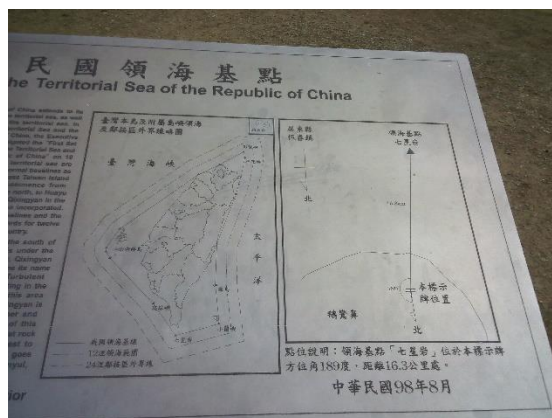
鮫瀬（さめせ）

女島の南方約3キロメートルに位置する鮫瀬を視察する。女島灯台敷地から、鮫瀬に向かい、一般社団法人海洋産業研究会中原裕幸常務理事に指さしていただき写真撮影。鮫瀬には、領海及び排他的経済水域（EEZ）の基線（低潮線）があり、万一、低潮線が2キロメートル交代すると、東京ドーム約1700個分に相当する約78平方キロメートルものEEZが失われるという。鮫瀬を示す案内標識の類はなかったが、台湾のように概略図と説明を記した案内板があると理解を助けるだけでなく、かつてあった国標と同じく日本

国の水域を示すものとして意義があると感じた。



鮫瀬を指さす中原理事



台湾最南端鵝鑾鼻（がらんび）の案内標識

11時20分・女島ヘリポート（※5）

宮本常一は、訪問先で高いところから現地を見ることを実践していた。視察団は、灯台に引き続き、ヘリポートを訪ね、男島方向を視察した。天気が良く、爽やかな風の吹く中、灯台とヘリポート間の稜線を辿る道は、実に心地よく、視察中、不謹慎ながら、ちょっとしたピクニックを楽しむことができた。



ヘリポートを散策する人々



祠

祠（ほくら）

女島灯台から前浜に戻る途中、祠や慰霊碑に立ち寄った。本島から隔絶した無人島に建てられた祠や慰霊碑に目を奪われたことを友人の神主にしたところ、「本気で神社を勧進すればいいじゃないですか！マジで立派な鳥居を建てて、燈台守みたいに神主が常駐するんですよ。赤い鳥居は目立ちますよ。」と言う。まじめな宗教施設と神職は、外国により侵襲

されにくいだろうということらしい。

12時20分・女島から男島へ

視察団は、再び乗船し、前浜を出航、男島洋上視察へ向かう。男島では洋上慰霊をする。野口市長と岩下 J I B S N 副代表幹事の両氏が慰霊碑に近い洋上で献花。この海域で明治38年、39年に起きた大海難をはじめ、亡くなられた多数の海員や漁民を悼み、海上安全を祈念した。



遠方にみえるのが男島（女島のヘリポートより）

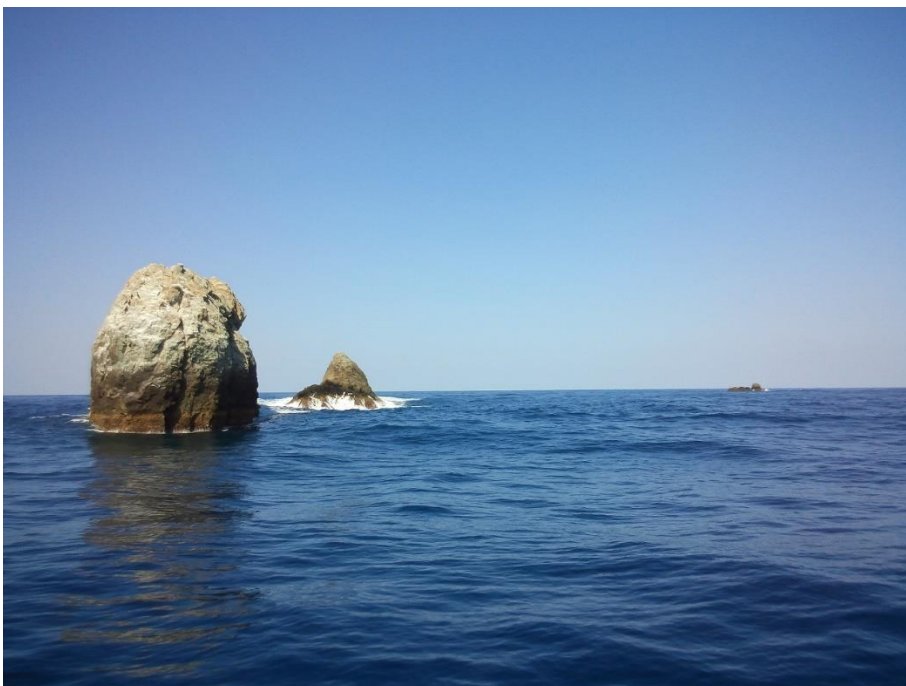
13時05分・肥前鳥島へ

個人的には、待ちに待った肥前鳥島に到達した。絶海の孤島、見渡す限りの大海原に、北岩、少し離れて中岩と南岩の3つが見えてきた。それだけでなく、明らかに日本の漁船が2隻も出漁していることに感激した。島と海は、地味に使い続けること、その場に人がいることに大きな意味がある。好天に恵まれているとは言え、福江から相当な距離を肥前鳥島まで出漁していることに感動を覚えた。北岩、中岩、南岩と大きな岩が屹立し、波にしっかり耐えている姿を目にすることができた。南岩には三角点もあるという。

13時30分・五島へ復航

約30分に渡る肥前鳥島視察の後、福江に向けて出航した。納税者である市民にはもちろんのこと、多くの人に男女群島・肥前鳥島の状況を見ていただくことの重要性を実感で

きた。ところで、小笠原村は、村民向けの見学会としておがさわら丸で沖ノ鳥島見学会を企画した（往復2200円、10月25日父島出航予定のところ、台風により中止）が、国内各地にある無人島を有する自治体は、旅行社や学会と連携し、積極的に見学会を行うことが大切である。男女群島から少し南に目を転ずれば、宇治・草垣群島（鹿児島県南さつま市、※6・7）がある。今後は、領海やEEZの維持に重要な意義のある極小無人島を有する各地自治体にもJIBSNへの連携・情報交換を呼びかけたいと思う。



肥前鳥島の3つの岩。手前左から南岩、中岩、北岩



中岩

※1・気象データ

http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/hourly_s1.php?prec_no=84&block_no=47843&year=2013&month=10&day=14&view=p1

※2・女島灯台

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/nagasaki/left/survice/mesima/mujinka.htm>

※3・日本の灯台50選

<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KOH0/hatsuhi/2013/todai50/index-todai.htm>

※4・女島灯台をはじめ全国の灯台における滞在勤務解消について

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/info/kouhou/h18/k20061031/t061031.pdf>

※5・灯台とヘリポートを含む女島の詳細画像は

http://www4.kaiho.mlit.go.jp/Aphoto/Air_code/ASP/ps_kou_gazou.ASP?img=../../Photo_gallery/Heavy/2000/200010507.jpg

※6・南さつま市笠沙町・宇治群島地図

<http://www3.synapse.ne.jp/hantoubunka/kaidou/map-ujigunto.htm>

※7・草垣群島（くさがきぐんとう）

<http://imagic.gee.jp/sima4/kagosima/kusagaki.html>